

平成30年度 神戸市立科学技術高等学校 マネジメントプラン実施報告書

今年度重点目標	具体的方策(取組内容・状況)	達成状況・課題	自己評価	改善の方策	外部評価	外部評価コメント
1. これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取組を活性化していく	・授業研究会や研究授業の実施	・校内研究授業は、家庭科・保健体育科・科学工学科で実施 ・実施できてはいるが、見学者が少ない、意識が低いことが課題	2.9	・各教科で最低ひとりは見学にいこう各教科に要請する ・参加者の輪番制導入 ・全科対応の都市防災の授業を核に校内で授業研究を推進	B	・簡単な英会話教育に取り組んでほしい。 ・授業研究の運営に課題が見られる。校内研修のテーマや目標、協議会の話題設定や実施方法、教員評価との連動などについて、具体的な改善尾検討が期待される。 ・社会的な動向や高校教育改革の動向を睨みつつ、具体的にどのような思考力や判断力を身につけさせるのか、教員間での共通理解を促進するような取り組みが望まれる。 ・4つの科をこえた「主体的・対話的で深い学び」の実現と4つの科の特徴を發揮した取り組みの推進の両方が大切だと思う。 ・現代はものづくり+情報=ものづくりの時代となっている。ものづくり+情報の教育とは何か、授業研究会で検討してはどうか。
	・各教科等に応じたシラバスの策定。	・作成したシラバスを共有ファイルで供覧、生徒へは最初の授業で配布 ・策定はできているが中身は不明 ・概ねシラバスに沿った授業ができていると思う		・昨年通りとするだけでなく、見直しを行い形骸化を避ける ・教科の目標を反映し生徒の特長にあったシラバスを策定とPDCA ・印刷したものを白板付近において、いつでも見ることができるようにしておく		
	・思考、判断、表現する場面を授業で設ける。	・「思考・判断・表現」を意識しながら授業するようになってきた ・実習内容等で工夫がみられるが、十分とは言えず、まだまだ発展途上		・各教科の主任に繰り返し要望する ・頻度と内容の検討が必要		
2. キャリア教育の視点から一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育む。	・各部署間で連携を図り、キャリア教育の視点で教育活動を行う。	キャリアセンターを中心に諸行事が企画されているが、部署間の連携が弱い	3.2	・部署間の連携を考え、より一層の工夫ができる ・一貫した、柱としてのキャリア教育の推進が必要	A	・新卒で就職する生徒へのキャリア教育に丁寧に取り組んだ成果が出ている。インターンシップへの教員の関わりなど、できる限りの支援を充実させている。人海戦術にならないような指導体制の構築が望まれる。 ・生徒の動向をしっかりと把握しつつ、適切な指導を試みていることが評価できる。
	・インターンシップ、オープンキャンパス等の参加の推進	・長期休業等を活用した指導がなされている ・希望生徒と受け入れ企業のバランスが問題、さらに充実させる必要あり		・各工業科を中心に、部署間が連携し、より一層の推進に努める ・インターンシップで専門学科に拘らずに受け入れる企業の開拓		
	・システム手帳の有効活用	使わせる意識と、各部署間の連携が弱い		・折に触れ、システム手帳を出すように伝え活用を図る ・様々な場面で手帳を持参させる習慣づけが必要		
3. ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材を育成する。	・職業資格・技能検定試験の合格率アップ	・各科とも努力して向上しているが、若手教員への工業技術の伝承 ・朝学等の時間を利用している	3.2	・特定の先生に負担が偏らないように工業科で配慮するとともに後継者の育成 ・長期休業中に学習ができる配慮と計画が必要	A	・資格、技能検定試験で成果を上げているだけでなく、科を横断して受験が可能となるような具体的な改善点が検討されているところが評価できる。 ・積極的な地域への情報発信がされており、地域からの関心のあり方についても、把握しようとしているところが評価できる。 ・安全教育について、これまでの課題を踏まえつつ、さらなる充実が見られる。 ・防災士の育成に重点的に取り組んでおり、本年度1年間で確かな進捗が見られる。 ・工業科では、グローバルな視点からの人材育成を、他校との交流を通して推進しており、時代の技術者として要求される外国語での表現力、コミュニケーション力を育てることは大いに評価できる。
	・積極的な地域貢献を行い、その取り組みを校外外に発信する	・科によって取り組みに温度差があり、不十分だと感じる		・空飛ぶ車いすなど、積極的に取り組めており、発信も頻繁に行っている ・カリキュラムを校外に開き、積極的に外部と上手に連携 ・Webやインフォメーションボードなどでの積極的な広報		
	・安全教育の推進	・積極的に実施しているが、今後、多様な生徒が入学してくるのでさらに対策が必要 ・体育でのけがが多い		・ヒヤリハット運動をさらに推し進める ・実習安全は全体の見直しが必要 ・6Sとして、さらに充実させる		
4. インクルーシブ教育システムの理念をもとに、個々の違いを認め合いながら、共に学び生き生きと学校生活が過ごせる環境を構築する。	・PDCAサイクルによる授業改善	・シラバスの実施後、調査が行われているが、不十分だと感じる	2.7	・各教科の主任に繰り返し要望する ・効果も公表し、必要性を周知 ・授業研究会での省察	A	・中学校との連携など、合理的配慮に取り組みが始まったことには評価できる。 ・ハード面や技法に加えて、合理的配慮に取り組むにあたって、背景となる理論や視点を教員間で共通理解を深めて、さらなる取り組みに期待したい。
	・合理的配慮による組織的・継続的支援	・保護者対応を含めて、きめ細やかな対応がなされている		・発達障害など生きづらさを抱えている生徒に寄り添った指導を今後とも進める		
	・いじめの早期発見・早期対応及び情報モラル研修の実施	・相談しやすい環境・関係ができている		・定期的ないじめアンケートにとどまらずに、必要に応じて実施 ・日々の取組と定期的な研修実施		

4: 達成できた
3: ほぼ達成できた
2: あまり達成できなかった

A: 自己評価及び改善の方策は適当である
B: 自己評価及び改善の方策は概ね適当である
C: 自己評価及び改善の方策は適当でない